

対象学年:第4学年以上
単元・領域等 「情報の扱い方に関する事項(情報の整理)」 「書くこと」

1. 作成の趣旨

「情報の整理」と「書くこと」の関連を図る学習で、社会科見学と新聞づくりという児童の日常生活を基に問題を作成しました。「目的を意識して情報を整理し、伝えたいことを明確にする力や、自分の考えとそれを支える理由を明確にして書く力」を身に付けることをねらいとしています。

【関連する学習指導要領の内容】

- 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 3・4年[知識及び技能](2)イ
- 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 3・4年[思考力、判断力、表現力等]「B書くこと」ア
- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 3・4年[思考力、判断力、表現力等]「B書くこと」ウ

2. 活用場面等(例)

例1 【第4学年の「書くこと」単元の終了後のたしかめ問題として】

- 光村図書4年:「新聞を作ろう」(6～7月)、「工芸品のみりよくを伝えよう」(11月)
- 東京書籍4年:「わたしのクラスの『生き物図かん』」(5～6月)
『和と洋新聞』を作ろう」(10月)

例2 【情報を集めて書くことを学習する単元のレディネステストとして】

- 光村図書5年:「みんなが使いやすいデザイン」(6月)
- 東京書籍5年:「地域のみりよくを伝えよう」(5～6月)

⇒活用後について

目的に応じて必要な情報を抜き出したりまとめたりする力が身に付いているかを教師が見取りましょう。また、情報を工夫して整理することの効果に児童自身が気付けるように、学習を振り返る時間を設定しましょう。

例3 【通潤橋を題材とした他教科との関連を図った活用として】

- 社会科「県内の伝統や文化、先人の働き」、道徳「道徳教育用郷土資料 くまもとの心(小学校3・4年)『布田保之助の心』」等

3. 「情報の整理」と「書くこと」の関連を図る授業の充実に向けて

- 各教科等の学習や教材、行事などの児童の日常生活と関連を図り、目指す姿の実現に向けて、効果的な言語活動を設定しましょう。
- 伝える相手や目的を明確に持たせて必要な情報を選択し、適切に表現するための条件を提示し、その条件を満たしているか見取りましょう。
- 書くために集めた材料を整理する際には、書くことに必要な語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりして図示することで、思考を整理できるようにしましょう。

自分が伝えたい内容にふさわしい情報は何かあるかを整理してみましょう。
関係するものを囲んだり線でつないだりすると分かりやすいですよ。



私が伝えたいことは○○だから、必要な情報は……。